

## 少しだけなら

「ねえ、お母さん、パソコンを使ってもいいかな。学校の調べものがあ  
るんだ。」

あつしたちは、総合的な学習の時間で、遠足のパンフレットづくりを  
しています。あつしは、中央公園の担当になりました。

「だめよ、きちんと使わないと。たいへんなことになるんだから。お母さ  
んは今から買いいものに行くから、帰ってきたらいっしょに見てあげるわ。」

「大じょうぶだよ、学校で習ったから。みんなも、家で使っているって  
言っていたよ。」

「本当に、大じょうぶなの。」

「ちゃんとやくそくを守るから。ぼくをしんじて。ねっ。」

あつしは、パソコンを使うときは『時間を決める』。『あやしいサイトは見ない』。『名前や住所などは



入力しない』。ということをお母さんとやくそくしています。

「大じょうぶね、しっかり守るのよ。」

お母さんは、そう言うと言いのに出かけました。

「いつものように、タイマーをセットして……。」

あつしは、さっそく、パソコンに向かいました。「中央公園」と入力すると、うまくサイトを見つけたことができました。

「よし、これをいんさつしたら、できあがりだ。」

そのときです。画面の右はしに、気になるものを見つけました。

「なにに、ゲームソフトのわりびきけんがもらえるのか。でも、あや

しいサイトは見ないって、お母さんとやくそくしたからな……。でも、

少しだけなら、大じょうぶだろう……。」

あつしは、おそろおそろ、クリックしてみました。



『あなたの名前と連絡先れんらくさきを入力してください。』

「ええっ、名前を入れないとだめなのか……。仕方しかたないな。」

あつしは、パソコンの電源でんげんを切り、中央公園のいんさつぶつを整理せいりし始めはじめしました。でも、あつしは、ゲームソフトのわりびきけんが気になって仕方ありません。

「少しだけなら、いいかな。それに、お母さんもまだ帰ってきていないし。」

あつしは、もう一度、パソコンの電源を入れ、先ほどのサイトにすみしました。

「名前と連絡先か……。少しだけなら、大じょうぶだろう。きっと、みんなもしているよ。」

どきどきしながら、名前を入れはじめたときです。

ピピッ、ピピッ、ピピッ。



タイマーの音が、へやの中にひびきわたりました。あつしは、はっとしてキーボードから手をはなしました。

カチツ。タイマーの音を止めたあつしは、じっとパソコンの画面を見つめました。

(ふう……。)

大きいためいきをついたあつしは、ゆっくりとゲームソフトのサイトをとり、パソコンの電源を切りました。そして、中央公園のいんさつぶつを整理し始めました。

そこに、お母さんが買い物から帰ってきました。

「ただいま。あらっ、ちゃんと使えたのね。やくそくも守って、

えらかったわね。」

「うん……。」

あつしは、下を向いて、ぼつりと答えました。

